

おとうふ工房いしかわ



大豆加工品の製造と販売を手掛ける、おとうふ工房いしかわ（本社高浜市豊田町1の204の21、石川伸社長）は、豆腐店「とうふや豆蔵」のボランタリーチェーン（VC）展開に乗り出します。豆腐や大豆加工品などをパッケージで供給。加盟店は既存店舗を維持したまま運営できる。新型コロナウイルス禍で打撃を受けた飲食店など向けに、事業再構築補助金が活用できるビジネスモデルとして提案する。

（刈谷・松田理恵子）

JR京葉線検見川浜駅構内のおいぎり店が業態転換した「とうふや豆蔵」

JR京葉線検見川浜駅構内のおいぎり店が業態転換した「とうふや豆蔵」

とうふや豆蔵は、「究極のきぬ」や「至高のもめん」などの看板商品のほか、油

揚げなどの豆腐加工商品、豆乳プリンといった菓子、自社製パンなどを販売する店舗。これまで自社で多店舗展開してきた。

今回、展開するパートナーは、ボランタリーチェーンの味」を取得し、1月に安城市の農産物直売所兼うどん店「碧海の大地 太陽」に改装して、実験店と



石川伸社長

豆腐店をチエーン展開

コロナ禍の飲食店支援

事業再構築に提案

(PVC)は、本部である同社が屋号を貸与し商品を供給。冷蔵ケースやPOS対応レジ、発注システム導入に当たっては同社の取引先を紹介する。フランチャイズチェーン（FC）より加盟店の自由度が高いのが特長。既存商品なども併売できる。商賈代金の1カ月分を預かり金とするが、ロイヤリティーなどは不要とする。

當業企画部にPVC事業部を新設したほか、東京営業所に担当者を配置した。コロナ禍で廃業となつた安城市的農産物直売所兼うどん店「碧海の大地 太陽」の味」を取得し、1月に「とうふや豆蔵太陽の味」に改装して、実験店と

記者の目

補助金活用のモデルに

の申請受付が始まる予定。高い関心を集めること

だ。

された「事業再構築補助金」は予算額1兆1485億円と、新型コロナ関連の中企業向け補助金で最大規模だ。企業の事業再構築を支援する狙いで、15日から第一回

に当てはめることができる

。業に提案する。というのも同庁が示す同補助金の活用事例「飲食ス

ーパー」を縮小して、新たにテークアウト販売を実施する」は、「ど

うふや豆蔵」への店舗リニューア

ルに当てはめることができるから

との思いは強い。曰ころから「お

とうふ工房いしかわ」かわが、なくてはならない存在

だと思われ続けたい」と語る石川社長。コロナ禍で自社は何をすべきか。出した答えの一つが、今回のVC事業ではないか。

おとうふ工房いしかわのVC事業は、こうした状況下で中小飲食

店の飲食スペースをなくし、販売スペースに転換したものだ。必要な設備投資やシステム構築費、研

して期待したい。（松田理恵子）